●丹波佐吉の石仏(石造物)考　Ⅴ●

幕末期、生涯「石仏」制作に捧げた

丹波佐吉は類い希な天才石匠である！！！

佐吉は、「平井・大師山石仏」制作を原点に、「関・観音山」にては驚愕するほど「観音石仏」を多数彫り刻み造り続けて、「大坂・舎利尊勝寺・准胝観音菩薩像」へと、最後は「上山家・不動明王」に帰結していくように、生涯を「石仏」に捧げた幕末の名石工・石匠である！！！

2020・10・18　Coma-たんさく人　M・K

丹波の佐吉の石造物についての雑考を、狛犬と石仏に視点をあてながら述べてきている。

(　・「丹波佐吉石仏考」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(2014 年 4 月 5 月・　)

それ以降、今までに、新たな佐吉の石造物が見つかっています。

①宇陀・平井・大師山石仏群内の「五輪供養塔」(第 20 番地蔵菩薩・鶴林寺の隣)

②正念寺・十一面観音石仏(・奈良-川西町下永・)

以上の 2 点、「佐吉作」であると述べてきた事から、再編集した「狛犬・石造物と石仏制作年表」(改訂最新版)を掲載します。

□■　石仏制作前期　□■□　1850 年代前半まで・佐吉――1855 年で 40 歳

石仏総数の第 1 尊目の記念碑的造像――「・大師山・第 45 番不動明王・」

既に、「石仏考Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で述べてきた基本軸、「石仏制作」に一生を捧げた佐吉の人生が浮かび上がってくると……。

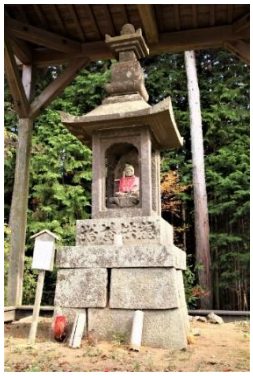
現在、狛犬制作総数は「24 基」で、石仏・供養塔制作総数は「78 尊(基)」で、狛犬の 3 倍以上「石仏」を制作しています。

佐吉の年齢で述べていきます。

およそ 30 歳後半から 40 歳ぐらいまで「宇陀・平井・大師山石仏群」で「石仏制作」に向かっています。人々が心から祈りをささげる「佛」を彫る実力を、造像できる場として、大坂で修行していた時の石工仲間を引き連れて、大和・宇陀にいき、平井・大師山霊場造りの総括責任者を引き受け、一から日々造像に挑んだと思います。石工としての出発の原点だろうと感じられます。

四国八十八ヶ所霊場石仏(真言密教の仏像・弘法大師像)を完成させています。

真言密教(大日如来仏が本尊)に関しての知識の習得はもちろん、日々「佛」に厳しく向かう「心」



を「技」を深く刻んでいっただろうと推測できます。真言密教の最も重要な仏さまの大日如来の化身の「不動明王」を、総供養塔として大師山全体見下ろす少し小高い丘に座した。右手に宝剣を、左手に羂索をもち、強力な憤怒でもって、四方八方みわたして、各石仏・大師像を坐し、宇陀・平井地域はもちろん大和の広範囲の村々の安全を護っているのである。

弘法大師（空海）は唐での修行を終え、日本での教えを広める重要な「佛」として、「不動明王」を据えたのは、修行の過程において不動明王に救われたという事があるからです。だから空海は特に「不動明王」と共に全国を廻りながら、その地域・村々で土木工事をも指導しながら、「佛」の教えを広めていったのです。およそ 1100 年以上経った今でも、最も優れた宗教指導者の一人であることに違いない。関西では、高野山しかり、四天王寺（大阪）、東寺（京都）といった関係の深い古刹があり、「お大師さん」「こうぼうさん」といわれ、庶民に広く慕われて教えが根付いています。（・平安時代初期の僧・真言宗開祖・高野山金剛峯寺・）。

この「・大師山・」でも、今でも近隣の村々から「命日の 21 日」には人々が集まり、法要等を行っているそうであるから、当時江戸時代では、さらに大きな信仰行事を行っていたのだろう。その意味でも幕末期の庶民生活に密接に関わっている「弘法大師」の教えを抜きにしては、佐吉の石仏制作を語ることはできないのではないかとも思われる。

だから、佐吉がその「不動明王」を総供養塔に坐すという事は、空海の真言宗の教えを学んだならば、必然的に導かれた結果であろうことは推測できます。又、数多くの「大師石仏」を刻んで坐した理由も肯けます。個々の大師仏に、技的に大きな違いがあるかどうか、現時点では詳しく判らないが、佐吉の「心と佛」を考えたならば、おそらく「納得できる佛・大師仏」を目指していたのだろうと思う。

石仏の技で考えるならば、総供養塔はただ一人で造像したとも言われているが、「不動明王」の光背火炎の透かし彫り、憤怒の表情、等々見事である。

> 石祠の一番上は宝珠で、それを受ける隅飾りのついた笠・塔身・基礎は宝篋印塔と全く同型であり……屋根の下には四本の柱を残して内部を刳りぬき、これはもちろん一石から彫り起こしたものである。屋根にはほぞが彫って、しっかりとはめ込まれている。……羂索を持つ左手も親指から小指にかけて貫通させてある。石の尺八を彫った佐吉が見せたかったのは、こうしたあやうさのぎりぎりまで近づいて彫る技術であったのだろう。……
>
> （　◇金森敦子著・「旅の石工」・P147,148 より◇　）

他の自身の石仏とやはり違う。中心「仏」としての彫りや刻み方に、強いこだわりがあったように思われます。

一方、石を刻む限界に挑戦し「御身躰五寸三歩(約 16cm 高)」の地蔵座像石仏を彫った。 果敢に挑戦してできた、多くの村の人々との共通の願いの結果であろう。立派な石祠がどんと据えられ、その中に坐していて、詳細に紀年銘・施主銘等を刻している状態からも推測できます。

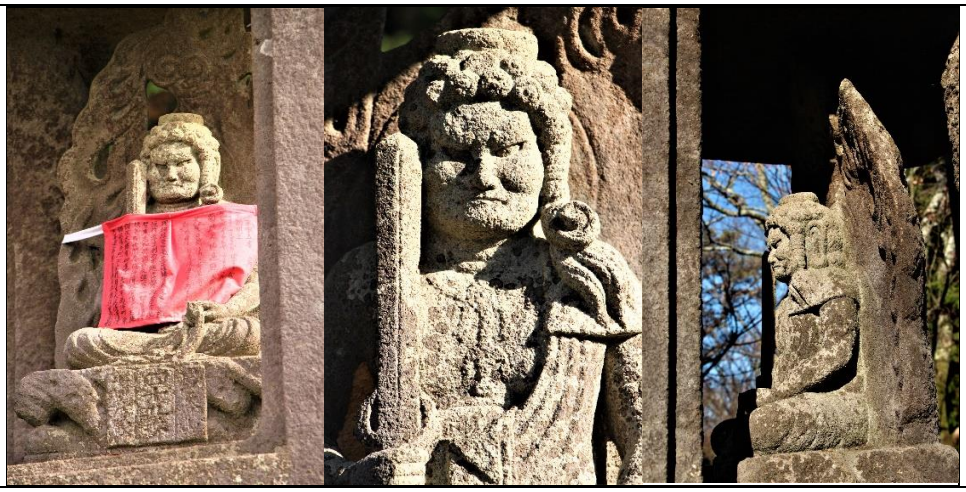
「不動明王」雑考

「不動明王」に焦点を当て、少し深く考えていくならば、佐吉 51 歳・最後の石仏・「上山家・不動明王(慶応 2・1866 年)」が、生涯「佛」と共にし、あるいは「対峙」した結果であろう思う。

「佛の心」を、一から空海の教えに学びながら、情熱豊かな若き時代に平井・大師山霊場石仏群を完成させた、「佛を刻んだという時の心の達成感・高揚感」を生涯持ち続け、「上山家・不動明王」が、飛躍していうなれば「大師山霊場石仏」の最終帰結点であるような気がします。石匠佐吉の強い意志がうかがえます。

(第 45 番・不動明王・総供養塔・嘉永五　1852 年)　御歳 37 才
(第 19 番・地蔵尊座像・約 16cm を、制作。石を刻む限界ぎりぎりの「技」でもって。
嘉永六　1853 年)　御歳 38 才

第 45 番・不動明王・大師山総供養塔



□■□　狛犬制作集中期　□■□　1850 年代後半ぐらい・佐吉――1863 年で 48 歳

この頃から、40 歳代佐吉は、豊かな感性を発揮し、集中的に個性的な躍動感あふれる「佐吉狛犬」を制作することになります。佐吉狛犬は、今にも基壇から飛び出すかのような動きが全体的に見られ、独特な毛並みを彫っている。「動の藝術」としての狛犬と、捉えてもいいのではないか。石工の原点として出発、「静の藝術」として石仏制作に約 4～5 年間対峙したあと、このように今度は「動の藝術」として狛犬制作に没頭していくのである。

平井･八王寺神社狛犬

柏原八幡神社狛犬

斑鳩･神岳神社狛犬

狛犬 1 基目･平井八王寺神社･嘉永五年　1852 年　御歳 37 才
狛犬 17 基目･佐吉狛犬最高傑作･柏原八幡神社狛犬･文久元年　1861 年　御歳 46 才
狛犬 20 基目･神岳神社･文久三年　1863 年　御歳 48 才
無紀年銘含め総数 23 基(狛犬･狐像･神馬像)である

□■□　石仏制作後期　□■□　1860 年代から･佐吉――1864 年で 49 歳

しかし、佐吉の「心」は、やはり再び「静としての佛」に挑むことになります。

47 歳ごろから「関･観音山」に西国三十三ヶ所観音菩薩霊場の石仏制作に向かいます。

計 28 尊の観音石仏を彫っています。「･平井大師山･」では、計 16 尊の様々な石仏(釈迦･薬師･阿弥陀･十一面観音･千手観音･地蔵尊)･および大師石仏 15 尊を造像し、「佛」を彫る「心」を学んだ佐吉は、この関･観音山(三重県)にて、再び「佛」に向かいながら、「技」と「心」を向上させていったに違いない。

関西圏(大阪･奈良･兵庫･京都･滋賀･三重･香川)といった広域で、単発の石造物をも造り続けますが、主たる「三重･関･観音山」では多くの観音石仏を造っています。

「凄い技」が関･観音山でみられます。仏師が「佛」を彫ったというぐらいに、「石」を非常に丁寧に彫っている、驚愕するぐらいに彫り刻んで「佛」を造っています。

大師山石仏群「第 19 番地蔵座像尊 ・ 嘉永五･1852 年」から、関 ・ 観音山「第 11 番上醍醐寺 ・ 准胝観音菩薩像 ・ 文久二･1862 年」へと飛躍的に驚くべき「佛」を刻んでいます。

なぜ、第 11 番上醍醐寺 ・ 准胝観音菩薩像に注視するのかというと、既に「石仏考Ⅰ･Ⅱ･Ⅲ」で詳細に述べているが、この後、「大坂･舎利尊勝寺･第 11 番准胝観音菩薩像(上醍醐寺)･(元治元年？･1864 年？)」に繋がるからです。この結びつきは、関･観音山石仏群を詳しく観ていく中で、必然的に繋がっていったのです。

時系列で概略すると、先に「大坂･舎利尊勝寺･准胝観音菩薩像(上醍醐寺)」を知り、写真を撮り、その後に、関･観音山石仏群の写真撮影･詳細な観察をしてきました。

初めて関･観音山･「第 11 番石仏」を実見して驚きました。「大坂･舎利尊勝寺･准胝観音菩薩像(上醍醐寺)」と全く同じではないかを実感しました。又、佐吉銘も刻んであり、宇陀･平井･大師山石仏群「第 19 番地蔵座像尊」から、関･観音山石仏群「第 11 番･准胝観音菩薩像」を経て、大坂･舎利尊勝寺「准胝観音菩薩像」へと確実に繋がりました。

「幕末期の日本の石工が到達したぎりぎりの限界の役行者像(大坂･舎利尊勝寺)」
(―金森敦子氏―)

金森氏は、役行者像に注視しているが、同じくもう一つの尊勝寺境内の「上醍醐寺･准胝観音菩薩像」の方も、上の金森氏の表現にふさわしい石仏である。

関･観音山「上醍醐寺･准胝観音菩薩像」から尊勝寺「准胝観音菩薩像」へと、誤解を承知にあえて表現すれば「狂気の技」としか言葉が浮かばないほど強い繋がりがあると思われるが……？

しかし、佐吉は決して「狂気」ではなく、日々厳しく「佛」と向かいあう「心」を「･大師山･」で学んだのを忘れずに、この「･観音山･」で、さらに「己と向かいあい」、「己の技」を磨いていただろうと思われます。関･観音山佐吉石仏を実見すれば充分に肯けます。仏師が、1 から「佛」を造像する時に「顔」を特に重視するのと同じように、石工として佐吉も西国三十三ヶ所礼所観音像と正面で向かいあう日々が多々あっただろうと想像します。全ての三十三観音像を観たに違いないほど、丁寧に「佛の顔」等を彫っています。個々の観音石仏像は、現在の今の観音菩薩像と遜色ないほど同じような特徴でもって彫り造り上げています。実際に菩薩像を見ない限り彫れない「顔の表情」･細かな持物も表現して刻しているので、時間の許す限り実物の菩薩像と何度も対峙したに違いないと推測します。

「･関･観音山･」の紀年銘考

（全 33 観音の内、佐吉石仏は 28 尊あります）

1854 年…第 1 番青岸渡寺･如意輪観音･」安政元年･京都石工笹屋宗七

ちなみに、第 2 番紀三井寺･十一面観音も･京都石工笹屋宗七です

1862 年…第 11 番上醍醐寺･准胝観音菩薩像･佐吉石仏･文久二戌年□(造？)作師照信花押

1863 年…第 8 番長谷寺･十一面観音･佐吉石仏･文久三癸亥年･作照信花押

※約 9 年の歳月がある。この期間が佐吉との関係性において、どう考えていいのか判らないが、1854 年･嘉永七(･3 基目神楽岡神社狛犬･4 基目宇陀水分神社狛犬)と順調に狛犬制作をしている最中であるという史実があります。

推測の域をでないが、前年の 1853 年嘉永六年に「･大師山･第 19 番地尊」の造像、「丹波･大燈寺･聖観音」の造像があり、続けて本格的に「石仏を彫る心」がすぐにわかなかったのかもしれない。ですから「関･観音山」石仏は、当初他の石工にまかせて、自身は「狛犬」に没頭していったのかもしれない。この九年間の前半、「･関･観音山･」石仏群の造像は、ほとんど進んでいなかったのだろうが、もう一方この間に、大和の地に拠点を構えていた地理的条件を生かし、実際の観音菩薩像と対峙しながら、西国三十三ヶ所札所観音菩薩に関しての多くの知識習得に励んでいたのかもしれない。あくまで、推測であるが……。

菩薩石仏計 28 尊を彫るということは、非常に佛に対しての「構え･決意」が必要であり、狛犬を制作する傍ら、その準備に時間を費やしていたのではないだろうか……？

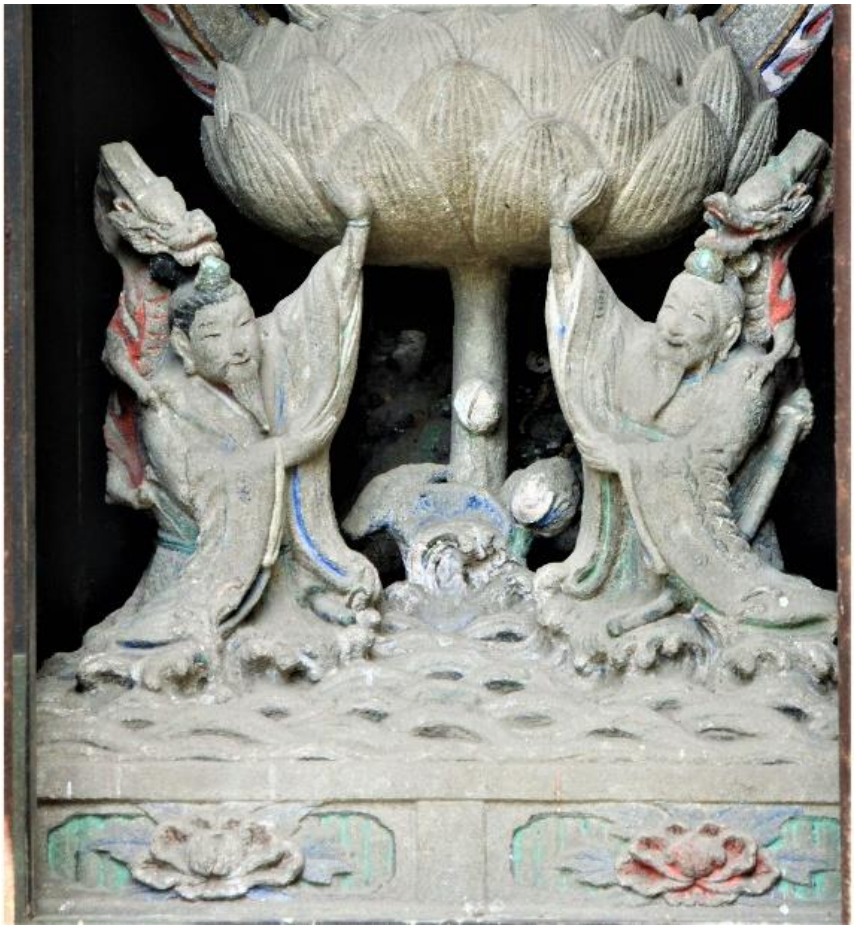
西国三十三ヶ所霊場札所･上醍醐寺　准胝観音菩薩像　「御影」

関･観音山･第 11 番上醍醐寺･准胝観音菩薩石仏･詳細画像

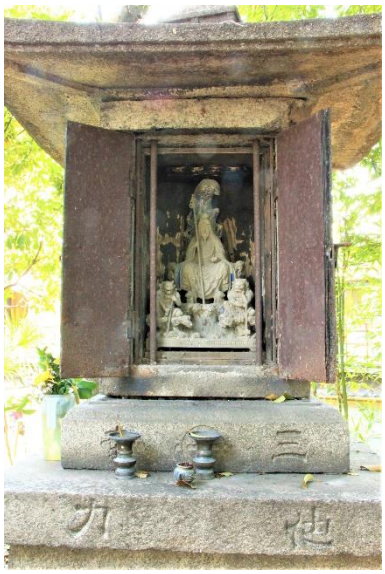
紀年銘･文久二戌年□(造？)作師照信花押

大坂･舎利尊勝寺･准胝観音菩薩像(上醍醐寺)詳細画像

大坂･舎利尊勝寺･准胝観音菩薩像(上醍醐寺)詳細画像



大坂･舎利尊勝寺･役行者像詳細画像



四国八十八ヶ所第 45 番札所岩屋寺(･不動明王･総供養塔･)の参考史料

「一遍聖絵」より、中世の時代の様子

海岸山岩屋寺は、典型的な山岳霊場で、むかしから多くの修験者の修行の場と有名であった。

今でも、88 札所中、一番困難な札所である。

2020･10･18　　Coma-たんさく人　M･K

丹波佐吉　狛犬・石造物と石仏制作年表

20140408　　Coma-たんさく人　改訂20140517

全面改訂最新版　2020年4月1日版

●印　大師山石造物関係

						石仏数	佐吉の年齢才	大師山石仏群 四国88所霊場	観音山石仏群 西国33所霊場	尊勝寺石仏群 西国33所霊場
狛犬・燈籠・道標・標識・墓石 ※数字 -- 狛犬・狐像・神馬像の数である				石仏名・供養塔　等				石仏制作・奉納年・期間		
0	天神社(台座のみ)	弘化4	1847				32			
			1851	嘉永4						
1	平井八王子神社	嘉永5	1852	嘉永5	●第45番不動明王・総供養塔	1	37			
				無銘	三尊石像善光寺美登路家所蔵	2				
			不明	不明	●地蔵菩薩立像(第1番釈迦如来佐吉石仏の隣)	3				
			不明	不明	●番外長谷寺式観音　立像	4				
				不明	●ひな女石仏(第32番十一面観世音佐吉石仏の隣)	5				
			不明	不明	●●●●●　弘法大師坐像15					
					●●●●●●●●●●●	20				
			1853	嘉永6	(第61番から第62番への途中単独)					
			不明	不明	●●●●●　札所石仏11	31				
					●●●●●●					
2	丹生川上神社中社	嘉永6	1853	嘉永6	●第19番立江寺地蔵尊　座像	32	38			
			1853	嘉永6	◆●番外五重塔	33				
			1853	嘉永6	◆●五輪供養塔	34				
			1853	嘉永6	聖観音　大燈寺	35				
			不明	不明	安楽寺　大乗妙典塔	36				
			不明	不明	小大師石仏　佐吉石仏	37				
					銘　照信作　花押					
					菟田野中学川沿い祠					
3	神楽岡神社	嘉永7	1854				39			
道標　・平井分岐点		嘉永7	1854							
4	宇太水分神社	嘉永7	1854							
石燈籠宇太水分神社永世燈		嘉永7	1854							
				不明	布袋像　徳源寺	38				
			1855	安政2	地蔵立像　法正寺　海會寶塔	39	40			
石燈籠宇太水分神社常夜燈		安政2	1855	安政2	●石燈籠大師山入口　永世燈	40				
石燈籠六柱神社永世燈		安政2	1855							

5	久米御縣神社	安政2	1855				
石燈籠神楽岡神社奉燈		安政2	1855				
			1856	安政3	●第45番岩谷山標識		
			1856	安政3	千手観音石仏　松尾寺内(･楊谷寺･)	41	41
6	醍醐･春日神社	安政3	1856				
7	石狐上山家の石狐	安政4	1857				42
8	素盞嗚神社	安政4	1857				
9	阿波神社	不明	不明				
10	石狐北山稲荷神社	安政5	1858	安政5	4 小石仏　明日香道標	45	43
11	十二社神社	安政5	1858				
12	杵築神社	安政6	1859				44
13	下永･八幡神社	安政6	1859				
14	御霊神社	安政7	1860				45
15	蛭子神社	安政7	1860				
16	五社神社	萬延元	1860				
17	柏原八幡神社	文久元	1861				46
18	沢･春日神社	文久元	1861				
松尾家の墓石西林寺		不明	不明				
19	兵主神社	文久2	1862	文久2	■関観音山　11番上醍醐寺 准胝観音菩薩像		47
						46	
					■■■■■■■■■■■26		
					■■■■■■■■■■■		
					■■■■■■■	72	
20	神岳神社	文久3	1863	文久3	■関観音山8番長谷寺十一面観音	73	48
			1863	文久3	◆正念寺･十一面観音◆	74	
平田道標 (skt飛鳥2番道標)		文久3	1863				
			不明	不明	役の行者 奈良･橿原市小槻町	75	
			1864	元治元	◆舎利尊勝寺　役の行者像	76	49
					◆舎利尊勝寺11番准胝観音菩薩像	77	
			1866	慶応2	上山家　不動明王	78	51
21	天神社	不明	不明				
22	摩気神社	不明	不明				

23	神馬像　佐吉作	不明	不明						
	富丘八幡神社								
	銘　丹州産村上源照信　花押								
	香川県小豆島土庄町								
?	牟佐坐神社(橿原市) 台座の刻字 奉獻　佐吉？	慶応元	1865						
?	於美阿志(おみあし) 神社基壇 (刻字　奉獻 佐吉？)	慶応2	1866						

■狛犬･狐像･神馬像--総数　23
推測の「基壇のみ」のを含めると　24

■石仏･供養塔---総数　78

※於美阿志(おみあし)神社(明日香村檜前)の詳細　慶応二丙寅年　1866年　HP･2018･5･17日付に掲載済

※宇陀･平井･大師山石仏群　佐吉作･五輪供養塔　嘉永六丑歳九月建之　1853年
----------HP･2020･3･6日付　詳細掲載

※正念寺・十一面観音石仏佐吉作（･奈良-川西町下永･）　文久三亥年　1863年
----------HP･2020･3･21日付に詳細掲載

丹波佐吉　狛犬･石造物と石仏制作年表
2020年4月版　　Coma-たんさく人　　Kanazawa